越谷町広報

発行所
埼玉県南埼玉郡
越谷町役場企画室
電話越谷42番・366番

滞納税金を整理
新町建設計書を推進

町の財政状況

遠大な新町建設計画を引さげて発足した新越谷町の財政について町民の皆様は日増どうなつておるものかと御案じのことと思います、合併早々でもあり、事務の調整に追われて何かと町民の皆様に御不便をおかけいたしましたことをおわび申上げます

昭和廿九年十一月三日の合併の日から十二月三十一日まで約二カ月の期間における財政事情を申上げたいと思います、合併後におけるこの二カ月間はほとんど前に申上た通り合併早々故事務引継等の整備に追われ、なお供出期をひかえての諸事務や町長の選挙事務、初議会の事務、消防関係事務等、合併に伴う事務の整備に忙殺され新町建設計画事項には及ばなかつた次第であります、今大雑把に町財政の状況を申上げますと、目下合併の当初でもあり、一般会計の面においては固より国民健康保険の如き特別会計に至るまで歳税成績が極めて不振で、町財政の運営には相当の困難が予想せられます、とは申しながら職員各位の懸命な努力によつて町政の面も昨今、漸く軌道にのつてまいりましたので、新町の今後の運営には何かと明るい見通しがついてまいりましたことは喜ばしいことだと考えています、このような状況にあるため、税収入の良、不良が行政に大きな影響を来しますので、一應本年三月迄で整備期間とし、町といたしましては極力職員を動員し、滞納の整理につとめる方針でおりますが今後貯蓄精神の昂揚はもとより、納税貯蓄組合の強力なる推進、ひいては生活改善を計つての冗費節減等、デフレ経済にそなえる諸施策を樹立して、一人一人の所得増加をはかり、もつて滞納をなくするように努力いたしたいと考えております、なお本年度予算にあたつては財政の確立を第一の目途とし、極力緊縮政策をとて、前年度の赤字を補塡する一方、新町建設計画を着実に、しかも住民の福祉のため、漸進的に重要部門から一歩一歩推進してまいりたいと思います、更に皆さんに何かと御不便をかけておりますが分室事務も一日も早く解決し、行政の能率化を図るため、新庁舎建設も実現したい考えております、どうかこうした実情にありますので、一層の御協力をお願いいたしますと共に御諒解願いたいと存じます、尚財政内容については左記の通りです

主なる収支の概要

一、一般会計　収入の部

一、町税	5,711,840
1. 普通税	5,689,573
2. 旧法による税	22,267
二、地方財政平衡交付金	4,457,000
三、県支出金	375,267
四、使用料及手数料	29,030
五、雑収入	438,793
六、繰入金	2,838,277
収入合計	13,850,207

支出の部

一、議会費	206,925
二、役場費	6,228,092
三、警察消防費	498,131
四、土木費	428,721
五、教育費	2,814,270
六、社会労働施設費	278,657
七、保健衛生費	34,626
八、産業経済費	1,097,225
九、財産費	32,831
十、統計調査費	12,220
十一、選挙費	277,124
十二、公債費	1,437,690
十三、諸支出金	166,010
十四、現在残高	337,685
支出合計	13,850,207

二、特別会計

収入の部

一、国民健康保険税	371,887
1. 本年度分	360,031
2. 過年度収入	5,940
3. 滞納繰越	5,916
二、一部負担金	14,816
三、国庫支出金	500,000
四、繰入金	800,000
五、繰越金	534,316
1. 旧町村繰越金	534,316
収入合計	2,221,019

支出の部

一、役場費	482,510
二、保険給付費	1,216,905
三、趣旨普及費	3,275
四、諸支出金	30,180
五、現在残高	488,149
支出合計	2,221,019

病院会計

収入の部

一、診療収入	490,512
収入合計	490,512

支出の部

一、施設費	366,284
二、給食費	121,348
三、諸支出金	2,880
支出合計	490,512

公益質屋会計　収入の部

一、事業収入	625,438
二、雑収入	118,553
三、現在残高	249,225
収入合計	743,991

支出の部

一、役場費	54,766
二、事業費	440,000
支出合計	743,991

（昭和29年12月末現在）

越谷町章審査會開かる

合併によつて新越谷町が生れ、しかも全国稀なる大越谷町の表徴として、親しめる町章を町民の皆様から募集いたし昨年十二月十五日締切つた処、一六四点の多数にのぼり、いかにおらが町として誇れる越谷町建設の意欲がありありとあふれていることを感じました、このような横溢した意欲がおりこまれている町章を一つ一つ選び出さねばならないので審査については審査委員会を設け、審査委員として左の諸氏を委嘱、十二月二十七日本廳舎において行い、審査の結果は

第一次通過　四六点
第二次通過　二四点
第三次通過　一二点
第四次通過　三点

であります、なお供出品点数は一六四点（出品者八六人）ということになり、最後に残つた三点については、更に専門的立場から専門家に検討していただき、その結果を審査委員会にかけて決定することになりました、決定次第廣報により御知らせいたします

ご協力下さいました應募者の皆様にあつく御礼申上げます

審査委員（十七名）

大塚町長　池の谷助役　会田助役
浅見収入役　黒田総務課長　石川税務課長　堀井産業課長　中村厚生課長　小林土木課長　島村経理課長　外山企画次長　明石県立越谷高校教頭　井出教育委員長　秋山教育長　大徳、田中、小田三先生の諸氏

寫真は町章審査会風景

農民の町
大越谷町への巨歩
県立家畜保健衛生所設立さる

農民の町、養鶏の町と知られる本町に、この度予算二百万円で越谷町大作町地内（日本畜産KK敷地内）に県立家畜保建衛生所が設置され農民の町越谷町の第一歩として南埼南部の畜産振興と併せて畜産農家の要望にこたえ、近日中入札の上（入札の資格者、県の登録を受けている人）建設されることになつております、詳細は次号にて……

上旬の主な日誌

四日　役場全職員の新年初顔合せを大沢中学校において開催
五日　御用始め
六日　町長出縣、関係当局に新年の挨拶をなす
七日　大沢公民館において地区農業委員出席、供米奮励について会議を開く
八日　当町に建設の縣立家畜保健衛生所に関する会議は地方事務所で開かれ町長出席、出羽支所に管内議員、職員の新年会行わる
九日　第四回埼葛駅傳競走行われ越谷町青年團が優勝す、新方支所では名刺交換会が、大相模支所では管内議員、團体長の新年会が開かる
十日　新年初の定例課長会議は午前中開催、各課提案事項を審議、午後第二回町壹決定の審査委員会開かる
十二日　教育委員会主催による町内小、中学校の巡視が行われ、教委等一行新方小、中校外教学校を視察す
十三日　教委前日に引続き巡視

青年団・中学校
駅伝
越谷地区
蒲生青年團優勝
中學校の部は増林中に凱歌
一四七名の若人が競う

南部連合駅傳競走は越谷地方教育研究会、南部連合青年團主催、地教委運務協議会、読賣新聞社後援のもとに昭和卅年の新春初頭晴天に惠まれた三日厳寒をついて午前十時大沢小学校前をスタート、ゴール地点越谷中学校前をめざして一チーム七人の選手が交代、青年團、中学校選手が入り乱れ、おりからの寒風をついて終始勝利の予断を許さぬ大激戦を展開しました

これら若人の精鋭を見送る沿道の人々はブレーブレーの声援を送り一台通れるほどにせばめられ、身動きも出來ない盛況でありました

こうしてしのぎをけずつた駅傳競走も正午二十六分三十二秒蒲生青年團がゴールイン、テープを切り優勝、本年の成績は近年にない記録であり、なお、青年團、中学校共、來る九日に行われる埼葛駅傳には本大会の区間記録保持者の中より選抜南部代表として出場いたします

本大会が新越谷町を祝しての大会でもあり一層ほえましい状景を呈しました、競技終了後午後二時元中学校々庭で閉会式が行われ、成績発表、賞品授與、來賓祝辞、講評等があつて午後三時一切を終了しました

綜合記録▼青年團の部

	時間
一位蒲生青年團	一、二六、三二分秒
二位出羽〃	一、三〇、四七
三位潮止〃	一、三一、二五
四位狭島〃	一、三一、〇二
五位大袋〃	一、三三、三四
六位増林〃	一、三三、二二
七位櫻井〃	一、三三、五八
八位大相模〃	一、三五、〇七
九位八條〃	一、三六、〇五
十位越ケ谷〃	一、三七、五〇

▼中学校の部

一位増林中学校	一、二九、〇二
二位蒲生〃	一、三一、〇九
三位越ケ谷〃	一、三四、〇七
四位狭島〃	一、三四、四五
五位出羽〃	一、三六、一九
六位大沢〃	一、三七、〇二
七位大相模〃	一、三七、一四
八位櫻井〃	一、三九、四六
九位大袋〃	一、四一、〇七
十位八幡〃	一、四一、二五
十一位八條〃	一、四三、二八

区間記録

第一区　戸井田祐三（大相模青）　二五分二四秒
第二区　川島茂（大袋青）　一六、五六
第三区　茂野光夫（蒲生青）　二〇、一二
第四区　藤田本博（蒲生青）　二〇、五一
第五区　恩田勇（潮止青）　一九、五〇
第六区　大野貞夫（櫻井青）　二〇、三九
第七区　谷塚征二（蒲生青）　一九、二五
第八区　茂子明（出羽中）　二〇、五九
第七区　河上三郎（出羽中）　一八、四八

中学校の部

第一区　松井正二（増林中）　二六、三四
第二区　中村茂（増林中）　一七、三六
第三区　江川誠一（増林中）　二一、〇〇
第四区　鈴木隆（蒲生中）　二一、三七
第五区　富沢進（増林中）　二〇、二九

蒲生青年団トップでゴールイン

越谷町青年団初の優勝成る
埼葛縦断驛伝

埼葛体協主催の第四回埼葛縦断駅傳競走は高校七チーム、青年團十三チーム、中学三十八チーム、三百二十八選手が参加して九日午前十時半栗橋町八坂神社前をスタートとして三十五㌔を走破、十二時半春日部高校のアンカー杉崎孝君をトップに各選手が越谷町蒲生中前にゴールイン、中学は百間、青年はこの度第一、組織なつた越谷青年團がそれぞれ優勝した

越谷町青年團記録　二時間七分四秒

竹の話
竹林も大きな財源

「あいつは少しおめでたい」などといわれる「おめでたい」は、あまり感心したことばではありませんが、日本では昔からおめでたいものの一つとして松竹梅が使われております

日本の特産ともいうべき竹林は、筍とともに国内の需要はもとより海外への輸出量も日を追うて増加し、今ではわが国の外貨獲得の上に大きな期待がかけられておるのであります

竹は古来から武具、鬘、團扇、笛、尺八、鼎、笠、杖、釣竿、櫓たが、建築材料、茶器、花器、かご、傘、提灯、ざる、箕、行李、竹串、下駄表等々に、いま少し手をかけ、伐採法も択伐に改めて改良に心がいただければ、どの竹林もよくなり良材の生産も大いに増加し、その上年々收獲をあげていくことができますので、この際竹林の択伐をおすすめいたします

その他の輸出品としては、竹皮が三・八〇六貫、筍七・八六五貫と以上のように埼玉縣には一千町歩に近い竹林があり、最近この栽培方面もとみに関心が高まつてきたことは喜ばしいことですが、大面積の苦竹林が放任されがちで、しかも伐採は無計画にすすめられ、收獲の際は皆伐する傾向が多いようです、そこでこの竹林の状況をみますとアメリカ、カナダを始め、欧州アジア、南方諸島方面へとどこまでも輸出されており、その輸出領域も十七億一千万円（昭和廿八年調）に達しております

さて、埼玉縣には竹林はどのおります、また海外への輸出状況をみますとアメリカ、カナダを始め、欧州アジア、南方諸島方面へとどこまでも輸出されており、その輸出領域も十七億一千万円（昭和廿八年調）に達しております

さて、埼玉縣には竹林はどの位あるかと申しますと、苦竹（まだけ）が七七三町歩、孟宗竹一二〇町歩、黒竹、女竹淡竹（はちく）その他合せて五〇町歩の合計九四三町歩＝越谷町の竹林合計約一五町歩＝昨年度の竹材生産量は、苦竹、孟宗竹、女竹、黒竹その他を合せて一六四、六〇八束

火の用心
各地に火災が続発す
備えあれば憂いなし

蒲生支所
町の最東南端に位す
四地区農業委事務所も附設

越谷町役場蒲生支所は当町の最東南端＝草加町に隣接して＝位置しのする温好な堀沢支所長（旧蒲生村助役）＝出納員兼務＝の指導により、管内住民の身近かな事務の戸籍、配給、住民登録、国民健康保険の各係員が和気あいあいの中に支所員として勤務しております

従來職員数は十五名でしたが新町の機構改組により本廳へ八名が轉出したので、現在は農業委員会書記二名を含めて七名の職員が机をならべ、町長の主唱する親切、丁寧、サービス本位をモットーに全員意氣を合せて明朗な町造りの一端を担つております

今までいろいろの事情で休止していた国民健康保険事業も、新年度から再開して町民の福祉をはかるべく、目下その準備に大わらわで廳舎は大正十二年四月に建築、廳舎前には立派な公民館が昨年新築され、青年團や婦人会の講習会など賑く町民の修養に会合に利用されております

（寫真は蒲生支所）

支所・分室めぐり（その四）

越谷町職員の初顔合せ

年末年始休暇もあけた四日、町役場においては、午前十時、大沢中学校に、本廳、各支所、各農業委員会、教育委員会、病院、診療所全職員の初顔合せを行い、大塚町長の訓示、挨拶、つづいて一同冷酒をあけて和和三十年の新春を祝し、職員一同氣も心も新に、正午閉会しました

なお当日の大塚町長の訓示、挨拶の要旨次のとおり

皆さん、明けましておめでとうございます、本日ご入に全職員が一同に会し、共に新な年を祝うことの出來ますことを衷心より御喜び申上げます、これを機会に皆さんにごあいさつかたがた今後の心構えを申上げたいと思います、御存じの通り新生越谷町は住民四万五千の大同團結でありそれだけ諸君等は町民の御期待にそうべく努力をして頂きたいと思います、私は昨年十二月十九日の町長選挙にあたり皆様はじめ町民の方々の御協力により当選の栄を得ました事を厚く御礼申上げます、私としましては本年度先ず財政の確立を第一の目途とし、新町建設計画を着実に行うため、池の谷助役を命じて実情を調査し、重要部門から一歩一歩、漸進的に実施してまいりたいと思います、又会田助役に命じて町勢の推移に伴い職員の整理を断行し、家庭的あるいは生活的に惠まれている者、又は事務能力のない者から涙をのんで馬耳を切る意図で整理して行きたいと思います、こうした関係者に対しては十分支障のないような制度を実施し合併の趣旨にそいたいと考えております、尚給與の調整も企画案、総務課で十分研究し、出來得るかぎり早い機会に断行する考えであります、職員各位におかれましては常に冗費節減に意を注ぎ、一本の鉛筆一枚の紙に至るまで努めて節約を旨として勤務せられたいと同時に、私に対してもヘイヘイどもうとも式でなく、課長を通するなり、本人直接なりに遠慮なく、下意上達の道を開いていただきたいと思います、開廳式にも申上げました通り、親切公平、責任完遂清廉潔白の三点をあくまで守り地方公務員の精神に則つて、住民に対するサービス本旨としてを寸時も忘れないよう更に明るい町の建設に努力されよう希望いたします

消防査閲 出初式行わる

機械化の精鋭 合併後初の連合査閲挙行

恒例の越谷地区消防團連合査閲は、旧越ケ谷、大沢、大袋、櫻井、新方、出羽、荻島、蒲生、増林、大相模の十カ町村と川柳村、八條村、八幡村、潮止村四カ村の縣消防協会越ケ谷支部（支部長荒井政太郎氏）傘下十四カ町村消防團團員一千五百名が初春を寿ぐ正月二日、折からの寒風をついて午前九時越谷高校に集合、縣消防課長を査閲官に迎えて、日頃練成の消防力をいかんなく発揮、操作、放水等を公開し町民へ消火の護り固しと妙技を示しました（写真は上・放水試験、下・分列式）

功労者・永年勤續者を表彰

会場は來賓として地元選出国会議員、縣議会議員、町議会議員その他隣接町村長、團長、消防主任の方々が臨席、総指揮官旧増林須賀團長の号令一下團員一五〇〇名、ポンプ自動車三台、ポンプ三輪車五台、手引ガソリンポンプ三台、可搬式ポンプ一六台、腕用ポンプ三三台が整列、式は先ず査閲官、町長、消防協会支部長、警察署長一行の各分團毎の人員服装の点検から始まり、機械器具の点検、ポンプ種類別の操法の点検があり、勇壮な團員の分列行進が校庭全面にくり展げられ、終って元荒川沿岸において越ケ谷側に機械ポンプ、大沢側に腕用、可搬式ポンプが移動行進し、一齊に放水試験を行いました

会場には早朝から一般観衆がつめかけ、合併後初の連合査閲であり私達の町の消防力は如何と熱心に参観され、團員日頃の練成公開の結果により、わが町の消火の護りは固しと感激の様子でした、放水終了後再び全員は越高校庭に集合、式は表彰式にうつり縣よりの永年勤続（受彰者総代吉岡信儀氏）火災予防成績優秀（受彰者総代石渡喜吉）二三六名の表彰状を縣消防課長より傳達、続いて支部表彰にうつり支部特別表彰、退職團長に感謝状の贈呈、特別功労者（受彰者総代加藤魏一郎氏）永年勤続者（受彰者総代大賀彦藏氏）民間功労者（代表峰岸勝治氏）に表彰状を支部長より授與、元役場消防主任に記念品を贈呈、終って査閲官の講評、來賓の祝辞があって午後二時とどこおりなく式を終了しました

なお当日表彰された方の主なるものは次の通りでした

＝縣＝永年勤続表彰【特別勤続章】旧櫻井村團長　吉岡信儀氏＝縣＝永年勤続表彰【一等勤続章】（潮止）織田省三、運見敬助、池田正治、秋山佐吉、石田梅市郎、秋山惣太郎、朝田慶四郎、（蒲生）須賀安太郎、澁谷初五郎、小倉熊藏、澁谷信太郎（大沢）山崎清治（新方）小見野清、（大袋）小會川崎太郎（川柳）大熊吉五郎、深井忠藏深井源司、植竹與藏（越ケ谷）本多金之助＝以上十九氏【二等勤続章】（大袋）浜野淳一郎（出羽）宇田川八郎（蒲生）中野保夫、中野篤一、浜野弥之丞金子庄吉、森田武雄（新方）外山好太郎、今井孝之、黒田六郎茂子春之丞、永野喜一、川尻春四郎、小林供、中村紋藏、黒田明男（川柳）若林勇、中村宗治吉田敏夫、藤波藤藏（越ケ谷）豊田源吉、石塚金三郎、江口重雄、金田甚太郎、斎藤幸太郎（大相模）豊田甚松、田村正一戸井田岩吉、山崎権八（潮止）服部吉太郎、篠田四郎吉、鈴木藤三郎、宇田川友一、武内隆三（大沢）鈴木清治（櫻井）肥田芳太郎（八幡）松本物吉、小早川吉藏＝以上三十八氏【三等勤続章】（荻島）松沢四郎以下百二十七氏【火災予防成績優秀者】石渡喜吉以下三十九氏＝支部＝【特別表彰】大塚越谷町長、大西喜吾、森田章加両警察署長【特別功労章】（大沢）加藤魏一郎（越ケ谷）荒井政太郎（櫻井）瀬尾昇（新方）大賀彦藏（大袋）浜野淳一郎（荻島）田村正男（出羽）宇田川八郎（蒲生）中野保夫（大相模）野口茂太郎（増林）須賀孝雄次（川柳）豊田四一（八條）茂井一郎（八幡）小早川小五郎（潮止）織田省三以上旧十四ケ町村消防團長【一等功労章】（越ケ谷）前田豊吉（大沢）岡崎治郎兵衛（櫻井）山崎久吉（新方）尾ケ井正三郎（大袋）瀬尾三郎（荻島）矢部西蕃（出羽）鬱谷慶三郎（蒲生）田口正之助（大相模）立沢松（増林）岡安忠藏（潮止）石田梅市郎＝以上十一氏【二等功労章】（越ケ谷）吉川善一郎以下二十六氏【三等功労章】（大沢）内藤金太郎以下七十六氏【永年勤続】＝三十五年＝（新方）大賀彦藏氏＝三十年＝（川柳）深井忠藏、深井源司両氏＝二十五年＝（大沢）降田清一郎以下四氏＝二十年＝（新方）茂子信治郎以下二十四氏＝十五年＝（大袋）日倉清右衛門以下六十五氏＝十年＝（荻島）松沢逸藏以下二百四名【民間功労者】（潮止）降旱勝治以下二十五氏

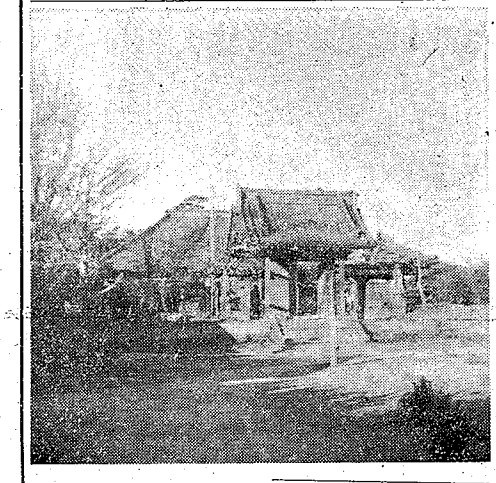
野島の子育地藏さま

郷土の名勝・旧蹟めぐり（二）

東武線越谷駅より岩槻行バスにゆられて十五分、野島地藏尊前にて下車、歩くこと三百米、有名な野島地藏尊に到着、赤門をくぐり本堂に入り見上ぐれば有名な日本一の大鰐口があり、それに附随して下つておる大総でボーンと二回鳴らし、人に知られている子授け、子育安產、出乳汁等で無限の大慈大慈の大誓願を垂させられる本尊地藏大菩薩に礼拝し、早速住職の石井敬德師に淨山寺略縁起について伺うことにいたしましょう

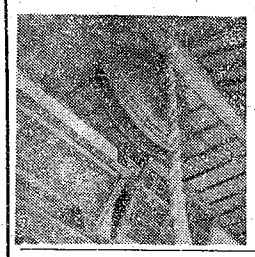
野島山に安置してある本尊の地藏大菩薩は、人皇第五十六代清和天皇の貞觀三年、今より一千九十余年前、天台の高僧慈覺大師、一刀三礼の御作で、大師がかつて日光山に登って中禪寺を開こうとした、たまたま降雨烈しく途中の河水は水があふれて船を渡すことが出來なかった、そこで河岸に二晝夜滞在して水の引けるのを待っていた、丁度季節が李（すもゝ）の実の熟する時だったので、大師はこの李の実を取って食べた、そして食べた李のうちの一つの種子を持って日光山に上ったのである、大師はこの種子を大空に向って「この種子の落ちた所を霊地と定め給え」と投げて、一宇造營の願をかけた、それから八年、諸国を回って捜りついたのが武州埼玉郡太田庄岩附であった、時あたかも李の花がらんまんと咲きそろっていたので大師はこれを見て「これは私が八年前に大空に向って投げた李の種であろう」と思って、そこに一宇の堂を創設されたのが、即ち今の慈恩寺である、大師はその李の樹を自ら伐採して三尊の佛体を彫刻した、それは根本で観音、中木で地藏尊、うら木で薬師の三体をつくり、観音は慈恩寺に、薬師は慈林寺に安置した、依って皆大師の名の頭字を寺号の冠字として共に大師の開基としている

このように三ケ寺とも天台宗に属し、野島山も永く慈福寺といっていたが、天正十九年德川家康公が越谷に御放鷹の際、当山地藏尊の霊験あらたかなのを聞かれて、親しく参拝されたことは、新編武蔵風土記稿に記されている、すなわち「淨山寺は禪宗曹洞派、足立郡里村法性寺末野島山と号す、当寺は貞観二年慈覺大師の建立にして本尊延命地藏尊は大師一刀三礼の作なり、元天台宗に属し慈福寺と号したり、東照神君越谷辺御放鷹の時、本尊霊験を聞し召されて御参拝あり「此の地霊にして山麓密として淨し」と上意ありて寺領三百石の御朱印を賜り曹洞宗に改め野島山淨山寺と命ぜらる、今本村を片目地藏と唱う信仰するもの多し、寺宝として錫杖あり、古色のものにして、その由來審らず、鐘楼は延享三年鑄造の鐘を懸く、附属社久伊豆神社　千体地藏堂なり云々」時の住僧は明山和尚といって曹洞派の僧で臨時補住であったが、家康のために武運長久玉体安穏の大願願を修したので、家康は喜びの余り、報恩謝德の印として御朱印三百石を賜ったのである、



当時一万三千八百坪の境内には、老松古枝鬱蒼として天日をさえぎり、開前の池水はあくまで澄く眺望絶佳、眞に清淨無垢の霊地である所から、慈福寺を淨山寺と改称し、又天台宗を曹洞宗に改宗してその後相傳えて現住二十五世石井敬德の代に至るまで連綿相続しているのである

本尊地藏大菩薩は、早くから人に知られているように、子授け子育、安產、出乳汁等で一千数十年の間無限の一慈大悲の大霊願を垂れさせられ、感應の妙理加持の幽義は厳く有縁の衆生に会得せしめ、これによって霊験感應を蒙る者は昔も今も異ることはない、櫻町天寿の元文六年の頃であった、地藏大菩薩は普通の僧呂の姿となって、毎日、朝早く諸の定に入るの大願願で



錫杖を打ち振り乍ら家々の前に立って、長夜の眠りを覚まさせ布施愛語をもって民衆を教化されたのである、ある時逆縁にふれて茶園で慈眼を傷つけた血が涙にまじって流れ出たので、向前の池の水で眼を洗った、それからというものは、この地に樓んでいた魚も虫も、みな片目になったという、その後誰ともなく、この地藏菩薩を片目地藏と名づけ、今でもその例名を呼んでいる、又野島の地に茶の木を栽培しないのも、その霊現ありたるによるのである、それ故、一切衆生の眼病をなおしたり、殊に生婦の難產に苦しむ人は一心に「南無野島地藏大菩薩」と唱えれば、声に應じて來迎し、その身を加持して頂けると思えば実に夢のさめるように速に安產する、生れた赤ん坊が神符を握り又は頭上に戴いて生れるのも現在多くの人が見たり聞いたりしている所である、今から二百三十年前後光明天皇の享德二年住僧四代目の州案和尚の頃であった

地藏尊霊体の背中に釘を打ち鉄の鎖でつないだので霊化をされなくなった、けれども現報のがれ難く住僧は業病にかかって還化されたということである、その後中御門天皇の享保十二年十二月九日十代目の住僧日巖和尚はお開帳の折、背中の釘や鎖を見るに忍びず抜きとられた、よってこの事を記して旧く「享保十一年丙午年十二月九日、当寺地藏尊霊験不可思議にして、俄かに遠近の男女参詣者夥しく、それは如何なるわけかというに、地藏尊背梁骨に鉄鎖あり、日巖、田口元右衛門、酒屋佐五兵衛等信心肝に銘じ、かの鉄鎖を抜きて済度ならしむ、それ以來遠近いよいよ崇信して、諸願成就するものなり」と大縁起に明瞭である、現在この釘と鉄鎖は宝物として保存してある、感應の願する所いよいよ霊験あらたかにして、一念信受の人々は必ずそのしるしを得ないものはない、安永七年、東京湯島天神神樂殿にて出開帳を催したところ数万の参詣人はるの如く群集し、袖を連ねて堂前につづいた、依って、天明五年同所を出張所と定め專ら布教弘法利生の行を行ったところ、正に十五万人に上ったという、現在寺に存する奉納品は皆その時に納められたものである、その後明治維新の改革に遭遇して、神佛の混淆を許さず、明治六年本坊に帰還して現在に至っている、けれども信徒の参詣するもの甚だ多く、霊験のあらたかなること今も昔と変りなく、一念信受の輩は必ず感應を蒙る、これも皆地藏大菩薩の霊德のしからしむる所であって崇ぶべきである、話しは滔々としてつきることなく、昔の百影を現す境内を見渡し二月八月の二十四日の縁日には近郷近在の善男善女の参詣が引きもきらぬ有様を呈し、花嫁姿の参詣も一際人々の心を引つけ野島地藏尊にふさわしい光景を呈するとゆう、美しい奥さんの介添も手傳って時間の立つのを忘れてしまい筆者はお暇を告げました（写真は野島山地藏尊全景と本堂入口にある日本一の大鰐口）

返戻請求書類等は 至急再提出を

各種 恩給業務の處理現況

公務扶助料、傷病恩給等についてご協力の程お願いいたします

縣世話課においては未進達のもの書類不備のため返戻したもの、あるいは未裁定のため進達出來ないもの、あるいは身分死因等に疑義を生じ調査を要するものなどが相当数ありますが、町役場厚生課では鋭意これが早急完了を期すべく努力しておりますのでご諒承下さるよう再調査、未提出等については速かに再提出下さるよう皆さまに、暫定的に分室を設けすでにおいでいただいて申上げ今後の納税促進に特段の御協力を御依頼申上ます

◆縣立家畜保健所も、農民の町越谷の第一歩として、二百万円の予算で、越谷町大作地内に建設することになりました、せいぜい御利用します

総務課は本廳舎に移轉

事務処理能率の向上を期す

越谷町発足に伴う事務処理については一時に多数の職員が一個所で事務を取扱うことが不可能のためこの度本庁所内で、税務課は本廳舎に移轉して執務しておりますのでご諒承下さい

なお、総務課には越谷局五二二番＝直通＝の電話が開通いたしましたのでお知らせいたします

今年こそは
自分の考えで
正しく明るく
進みましょう

迷信因習の打破に……
冠婚葬祭の簡素化に……
保健衛生の改善に……
衣食住の合理化に……
娯楽の健全化に……
エチケットの社会化に……
生活の共同化に……

謹賀新年

税務協力員（前号脱落分）

神田精志　金子春吉
海老名誠喜　関根作藏
神田喜助　高沢春吉
関根進　神田貞次郎
新方俊雄　石渡普吉
松崎栄之助　茂子貞喜
八木橋進一　茂子杉太郎
瀬尾順三老　茂子正一郎
岡安春一　海老名由太郎
平野忠義　平野四一
永野魁　海老名常五郎
永野金吉　川上順一
永野喜一　小林勝之助
還藤右一　山崎利雄
萩原篤太郎　永野辰藏
染谷栄　榎本鉄之助
小見野清　坂巻雅一
永野保次　永野正止
川上初藏　川上源次
浜野武夫　石渡嘉一郎
永野米一　森田一之助
石渡正一　染谷孝太郎
新木田慶治　染谷金藏
加藤寅吉　染谷助次郎
坂巻普藏　伊東演熏
染谷末一　黒田勝三郎
中村六右衛門　黒田六郎
八木橋貞三郎　尾ケ井正三郎

農業委員選挙の 選挙人名簿調整

公職選挙法の規定に従い、縣選挙管理委員会の指示により総務課では、農業委員会委員選挙人名簿の調整を、一月十五日現在で次の要件により行っております

1、選挙権を有する者
イ、住所＝農業委員会の区域内に住所を有していること
ロ、年令＝満二十才以上であること、この場合の年令の算定は選挙人名簿確定の期日即ち昭和三十年三月五日現在で行うことになりますので、今年は昭和十年三月六日までに生れた方が該当者となります
ハ、一反歩以上の農地について耕作を営んでいる経営主及びその経営主と住所、生計を共にしている同居の親族並びに同居の親族の配偶者であって、年間におよそ六十日以上耕作に従事していると農業委員会で認めた方

2、選挙権を有しない者
イ、禁治産者＝民法上の禁治産の宣告をうけた方
ロ、禁こ以上の刑に処せられ、その執行を終るまでの方
ハ、農業委員会委員選挙の選挙犯罪によって選挙権の停止をうけている方

選挙人名簿の縱覧は昭和三十年一月二十日から二月三日までの十五日間、役場本廳及び各支所か又はその指定した場所において行います、選挙人はこの名簿をご覧の上脱漏や誤載があるときは、この期間内に文書を以て異議の申立をしていただきます

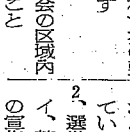
若し正しく名簿に登載されていない場合は、選挙権はあっても投票の権利を行使できないことになりますからご注意下さい

編集後記

◆昭和三十年度の新春をここに町民の皆様とお迎え御同慶に存じます、越谷廣報も希望あらたにスタートいたしましたので旧年に増し町民の皆さんのご協力をおねがい申上ます、本号は特に町民の皆様が案じておられる財政状況について、本年度中に実現するよう縣当局と折衝中であります

◆廣報も何かと御批判をいただき有難う御座います、廣報はあくまで皆さんと役場を結ぶ報道機関としていつまでも続けてまいりますので一層の御支援をおねがいいたします

◆去る十二月二十五日付発行の第四号越谷新聞に二、三町民の御意見がのっておりましたのでお答えいたします、（一）蒲生B生の御意見の中に大沢と蒲生の駅名を変更してはとのお言葉ですが、これにつきましては課長会議の際、話題にし十分研究協議した上決定したいと考えておりますから御諒承ねがいます、（二）荻島勤めの一女性の御意見によりますと駅前の破損道路を補装ねがいたいとのことばですが、駅構内の道路については、東武鉄道会社と交渉し補装するよう考究中であり、又縣道については縣予算とにらみ合せ、これも本年度中に実現するよう縣当局と折衝中であります



越谷俳壇

鳳仙花子ののど二日の垢ためて　糸川公美

月の終電生き際突く妻吹かれ　鳳仙花

妻の足跡深くふとんの綿入るる　肥汲みに來るだけの家バラ終る

用下さいますようおねがいいたします

今月の納税は…
新町の発展は皆様の納税から
町民税…第四期
納期は一月卅一日まで
（但し、蒲生支所管内のみは除く）